

【論文】

1881年ポグロムに関する資料の分析（1）

黒川 知文

はじめに

本稿は、革命後の1923年にモスクワとペトログラード（現サンクトペテルブルク）において出版されたМатериалы для истории антиеврейских погромов в России（『ロシアにおける反ユダヤポグロム史のための資料集』以下『資料集』に略す）のロシア語からの翻訳とその解説より成る。Г. Я. クラスヌイ＝アドモニ（Красны＝Адмони）が編集した『資料集』は、ロシア帝国立出版局によりペトログラード市のアレクセーエフ国立学術実務学校印刷所において1000部印刷された。本文528頁に付録が付いて540頁にも及ぶ膨大な量の資料集である。これは、1881年4月15日から翌年2月29日まで南ロシアにおいて発生したポグロム（ユダヤ人に対する破壊活動）を扱った同時代の貴重な公的一次史料である。

1881年ポグロムはどのようなものであったのであろうか。この史料を順に翻訳して分析することにより、ロシアにおける最初のポグロムである1881年ポグロムの実態と原因とを究明することが出来ると考えられる。

1919年に、『資料集』の第1版が出版された時に、国立出版局編集部は、次の点を指摘した。すなわち、「記録保管所の状態により、現時点では、資料の年代順の出版を開始することはできない」ということ、また、「キシニョフのポグロムと、それと関連のあるドゥボサルスキーの問題を扱った第1巻は、いわば、挿話的な〔つまり、非体系的な〕性格を帯びている」ということである。4年後にペトログラードの記録保管所の状態が整ったため、

これらの資料を年代順に整理し、出版することができるようになり、この巻から出版されている。

編集部が、『資料集』の年代順の出版を1880年代のポグロムから開始しているのは、過去40年間のロシアの歴史において、ポグロムが、旧ツァーリ体制の内政において明白な事実となり、ほとんど継続的とも言える歴史的事件になった、と考えられるからである。特に1821年、1849年、1859年、1871年のポグロムは、偶発的な性格を帯びている。

さらに、ロシアのユダヤ人の生活においてポグロムは明らかに歴史的転機となった。まさにこの時から、政治的社会的活動の全領域においてユダヤ人を標的としたロシア人による迫害が始まったのである。以後ロシアにおいて、ユダヤ人迫害は、日常的な出来事となり、それに伴って、ロシア全土にユダヤ人に対する精神的な抑圧が広がった。

『資料集』の本巻は、2部から成っている。第1部は、地方当局による中央政府への迫害に関する報告書と、これらの報告書の内容を巡って交わされた通信文である。報告書と通信文の日付は、1881年4月15日（エリサヴェトグラードのポグロム）から同年9月までであり、この期間に、ロシアのユダヤ史において最も重要なポグロムが起こったのである。これらのポグロムは、中断を含みながら1884年の夏まで続いた。

『資料集』の第2部は、П. И. クタイソフ伯爵が内務大臣に当てて書いた報告より成る。報告の日付と内容は、第1部の報告書のそれと同じである。クタイソフ伯爵は、ポグロムの原因と性格を明らかにするために、事件が発生した諸県に中央政府から派遣された。これらの諸報告の存在については明確であったが、帝政時代においては、中央政治局の公文書保管所への立ち入りが困難であったことから、利用できなかった。革命後も1920年代まで歴史研究者はそれを自由に読むことがまったくできなかったのである。革命が一応終結して、この史料が公表されるようになったために、さらにもう一つの——しかも、非常に興味深い——可能性が出てきたのである。すなわち、ツァーリ体制の内政におけるほとんど恒久的な要素としてのポグロムを生み

出した原因と、その時代背景をより深く理解できるようになっただけではなく、帝政時代のツァーリ体制の内部機構に対しても、より深い洞察を加えることができるようになったのである。

クタイソフの報告は、官吏が内務大臣に当てて書いた単なる報告書というだけでなく、すぐれた高級官僚がヨーロッパ問題に関してどのような政治的イデオロギー——当時的高级官僚の世界にとってある程度典型的とも言えるイデオロギー——を持っていたかを明らかにするものでもあった。後で見るように、ユダヤ人についてということであれば、このイデオロギーには、悪意はまったく含まれていない。20世紀初頭以降、ロシアの官僚と統治者のグループ一般のユダヤ問題に対して、悪意は含まれていないのである。

しかし、ツァーリ体制は、ロシア国民の最も現実的な必要を無視し、その原因をユダヤ人とする傾向がすでに顕著になりつつあった。民衆は土地を持たず、飢餓がロシアの南部であるウクライナ全体に広がっていた。民衆の間では動揺と地方政府に対する不満が広がり、その結果、ロシアの各地に、様々な規模のポグロムが発生した。一方、中央政府当局は、政府に対する民衆の抵抗を静めるために、「これは、ユダヤ人の経済的優位と支配のせいだ」と説明した。ポグロムを根絶し、反乱を起こした民衆の感情を鎮めるためには、ユダヤ人の経済力を無力化し、彼らを農民の経済レベルに「引きずり落とすだけで十分だ」、とする見解である。しかし、当局は、「農民の経済力をユダヤ人の経済力の水準にまで引き上げ、この水準に達したら、彼らを健全かつ有益な競争に委ねることによって、ロシアを実質的に勝利に導く」という見解を持たなかった。

クタイソフは、前者の見解を持っていた。この見解は報告のいたる所で示されており、中央政府当局は、それを最後の手段として歓迎した。中央政府当局では、怒りと敵意を抱く民衆に対してそのような見解があることを受容した。当局がすべての責任を回避できるからだ。イグナチエフ伯爵のユダヤ政策を示唆したのは、まさにクタイソフ自身であるということができる。この政策に基づいて、まずユダヤ人問題県委員会が発足し、その後1882年に

は反ユダヤ的な「五月法」が制定された。同法律は、ほぼ40年にわたって、無数の権利をユダヤ人から奪い去ったのである。まさにこの視点から、クタイソフの報告メモは、特別な意味と役割を持つようになり、その公表は、疑いもなく、最も重要な歴史的意味を持つ出来事となったと考えられる。

『資料集』本巻のすべての資料は、旧ツァーリ政治局記録保管所から得られたものであり、ロシア語原文のまま印刷されている。まったく重要性のないものか、重複している部分を除き、ポグロムに関するほとんどすべてが掲載されている。文体や正書法は、原文どおりである。ただ、句読点が数多く挿入されているが、これは、意味をはっきりさせるためである。例えば、時折、明らかに意図的に間違いだらけにしてある宣伝ビラの文章の中とか、推敲不足によって欠落したことが明かな言葉を挿入したことも見受けられる。このような場合、これらの言葉は、括弧に入れられ、疑問符が添えられている。

報告資料だけは、ある程度、年代順に並べられている。クタイソフの報告は、時系列的に見れば、かなり無秩序に並んでいるが、原資料に従った。当初、編集部は、読者の便宜をはかって、この資料も年代順に並べようとしたが、後には、予想される非難を回避するために、記録保管用資料をそのままの状態を提供した方がよいという考えに変更した。報告書や報告の中に記されているすべての統計資料は、便宜上追加されたものである。

『資料集』が出版できたのは、アカデミーセンターペトログラード支部長M・P・クリスチと、印刷と費用を負担した国立出版局ペトログラード支部長I・I・イワノフである。二人は、ロシアの史料編集にとって、詳しい資料を収集し、公表することがいかに必要不可欠で重要なことかを理解していると考えられる。なお、第一巻の出版には、ユダヤ歴史民族誌学会の協力があった。

以後、この史料を翻訳して、分析していく。(注)

第 149 号

閣下。非常に驚くべきことに、我々は、複数の新聞を通じて次のような情報
を入手した。すなわち、「キエフ市等での略奪と騒乱の犯人たちは次の3つ
のグループに分けられる。罪の小さな者たちは、警察の監視下の地に送ら
れ、罪の大きな者たちは、1ヶ月から3ヶ月の間刑務所に収監される。騒乱
や略奪に参加した人の中で少数の者だけが軍事法廷にかけられる」と。こ
のような略奪犯に対する刑罰は非常に軽いものであり、恐らく犯罪者たち
の心を落ちつかせてはいないだろう。このような軽い刑罰を受け、牢屋から出
た彼らは、再び略奪や破壊活動を始めるだろう。今は略奪の対象はユダヤ人
であるが、次に、彼らは商人や貴族をも攻撃し、最後には政府に対して暴動
を起こすようになるだろう。略奪や破壊に加わったすべての人は、自分の地
方からシベリアにある流刑地への追放命令にまともに従うだろうか。もっと
罪の重い人々は、苦役に従うだろうか。また……（判読不能）。このような
ペテン師どもに哀れみは禁物である。彼らには、きちんとした厳しい刑罰を
加えねばならない。このようにしない限り、将来、人々や政府を脅かすすべ
ての悪やすべての脅威を取り去ることはできないだろう。我々は、政府が、
自分の国と祖国を愛する忠実な民衆を守るために最も厳格な措置を講じるこ
とを願っている。北西地区の地主と貴族の一人。ワルシャワ 1881年6月1
日/5月19日。(Ll. d. 251-252)。

第 150 号

内務省。ベッサラビア県知事。官房第1課扱い。1881年5月11日、第2493
号。キシニョフ市。内務大臣殿へ。

本年5月9日付第2300号の提出文書への補足として、閣下に以下の点を報
告する。オルゲエフ郡警察署長からの情報によれば、オルゲエフ市のユダ

ヤ人住民に、ユダヤ人とキリスト教徒の間に衝突事件が発生するから用心するようにと警告する手紙が密かに投げ込まれた。取り調べによると、この手紙は、5月6日オルゲエフ市において、町人シャプソヤ・コッチュジャンスキーによって発見された。コッチュジャンスキーの説明によれば、それは古いヘブライ語で書かれており、商人ハイム・キベルガンスキーと一緒に読んだ後で、キベルガンスキーはそれを廃棄した。その後、5月8日に、町人シャイ・クリステルの家に、別の手紙が投函されていた。そこには、「キベルガンスキーが最初の手紙を廃棄したが、私は再度ユダヤ人に警告する。衝突に対して備えをせよ。そうしないと、ひどいことになるぞ。」この手紙も廃棄された。誰がそれを廃棄したのかは不明であり、そのため、この噂を流した犯人を特定することもできないのである。(L. d. 253)。

第 151 号

内務省。ベッサラビア県知事。官房第 1 課扱い。1881 年 5 月 16 日、第 2534 号。キシニョフ市。内務大臣殿へ。

本年 4 月 23 日付第 1999 号の提出文書への補足として、閣下に以下の点を報告する。4 月 20 日の殴り合いの喧嘩の際に頭部に傷を負った煉瓦積職人ミハイル・アフシャニコフは、古儀式派教徒であり、チェルニゴフ県ドブレンカ近郊の住民である。彼の傷は、最初、郡の病院の医者によって軽傷であると判断されていたが、病状が悪化した結果、麻痺に至り、それが原因で本年 5 月 13 日夜に死亡した。故人の労働組合関係の同志たちが私に提出した声明文によると、彼のもとには、未亡人と 3 人の子供が遺された。彼らの生活は、もっぱら彼の仕事によって支えられていた。最初にとどいた報告によれば、故人は騒乱にはまったく加わってはいなかったもので、私は、未亡人に 50 ルーブルを支給した。その他にも、キシニョフのユダヤ人社会は、故人の家族のために、500 ルーブルを集めた。私は、このお金をしかるべき人に

支給するためにチェルニゴフ県知事に送った。故人に致死傷を負わせたユダヤ人は、逮捕され、収監された。予審判事は、この件について、予備審査を行っている。県知事・・(署名判読不能)。(L. d. 254)。

第 152 号

内務省。ヴィテブスク県知事。官房第1課扱い。1881年5月20日、第344号。ヴィテブスク市。秘。国家警察局宛。

国家警察局は、本年5月15日付公文書第3003号とともに、無記名の密告書を私に送付してきた。この密告は、レジツァ市民によるものであるかのように見せかけていた。そこには、「分離派教徒が我々を襲撃しようとしており、危険が迫っている」とのレジツァ市のユダヤ人の申し出に対して私が何も対策を講じていない、と記してあった。このため、私は、貴局に対して次のように慎んで通知する。すなわち、現在まで、レジツァ市だけではなく、ヴィテブスカヤ県全域においても、騒乱の発生を予示する深刻な兆候はまるでない。しかし、ロシア南部で起こっている同信者に対する襲撃事件に怯えているユダヤ人の不安を考慮して、私は、住民を安心させるために、また、何らかの乱暴行為が発生した場合に備えて、あらゆる手段を講じた。このような事態に備えて私が警察官に与えた特別な指示とは別に、ヴィレンスキー軍管区の部隊の指揮官は、私の提案に従って、野営に出した部隊から特別部隊を分離した。そして、私の指示にしたがって、それらを必要な町に駐留させた。かくして、レジツァ市にも、現在、歩兵大隊の中の1中隊が保安のために駐留している。何らかの特別な事件が起こらず、県のいかなる場所においても秩序が乱されることがないことを願うものである。

貴局が送ったのと類似した匿名密告は、ほとんど毎日のように私のもとにとどいているが、入念な調査を行うと、それらのいずれも重要な意味を持つも

のではないことが判明している。南方において発生した事件に関するおさまりの噂話でしかなかったり、ときどき「酔っぱらいが、ユダヤ人に向かって、その狡猾さを罵った」というものもあるし、または、ある男が、ユダヤ人を殴れ、と冗談まじりに述べてきたこともある。私は、これらの個々のケースについても注意を払い、また、脅迫者たちを調停判事のもとで責任をとらせるようにも指示した。県の検事に対しては、これらの事件の審議はできるだけ早く行うように要請した。検討の結果、「これらの密告の目的は、当局を驚かせ、ユダヤ人を守るために特別な措置をとらせることにある。彼らはこれらの措置を利用して、それだけでなくさえ圧倒的に優位なここでの立場をさらに強化し、ついには、誰からも罰せられることのないほどの地位を獲得しようとしている。」ということが判明したのである。皇帝侍従武官長団、少将フォン・ヴァル。(Ll. d. 255-256)。

第 153 号

ペテルブルグ。内務大臣イグナチエフ伯爵へ。1881 年 5 月 27 日付プロヴァロフからの電報第 64 号。

我々にとって、このような重苦しい時に、新たな悲しみが加えられている。1880 年 4 月 3 日付の大臣通達があるにもかかわらず、首脳部の意向により、我々はキエフから追い出されようとしているのである。神のあわれみを示してください。追放を差し止めるよう命令を出してください。我々はまだ、最初の迫害から立ちなおっていません。破壊者 1 協会代表ベンツィオン・カプラン。(L. d. 258)。

第 154 号

内務省。ヴォロネスク県知事。官房扱い。1881 年 5 月 24 日付第 151 号。秘。

国家警察局宛。

貴局に慎んで以下報告する。私が管轄する県のパヴロフスク市において、今年5月18日夜、ユダヤ人の商店や民家への襲撃が5月31日と6月1日に起こると予告する手書きの声明文が配布された。

私は、現在の不穏な時期を考慮して、県に対して措置を講じた。その結果、警察は騒乱の際に時宜にかなった対応ができるように監視態勢を強化した。(L. d. 259)。

B. 警察局第2文書部の公文書から。『群衆が引き起こした南ロシアの諸都市におけるユダヤ人の資産略奪を伴う騒乱に関して』第681号第3部

1881年6月1日より1881年9月28日まで

第155号

国家警察局に関する内務大臣の秘密通達第3346号。1881年5月29日から6月3日まで。 県知事各位。

本年5月6日及び23日付の通達において、私はすでに、閣下に対して「現在、わが国のかんばしくない国内事情を好転させるには、国家や社会の様々なレベルにおいて、すべての臣民が一致団結して努力することが必要である」と申し上げる機会を得た。今この場を利用して、さらにもう一度このことを繰り返しつつ、私が強く信じている以下の考えを表明すべきであると考えるものである。すなわち、最近の不穏な事件に怯え、現体制の敵が広めた歪んだ噂によって動揺している民衆に対して物理的に働きかける前に、体制寄りの影響を与えることによってこれらの大衆との距離を縮めるべきであ

り、それには、県当局は、住民の気持ちを鎮めるために、県内のすべての職員の協力だけではなく、国家の仕事に対して義務を負っていない人々の協力も確保すべきであると。閣下には、地元の大主教管轄区域指導部や県貴族長、郡代表との間に [この点について] 合意を得ていただき、さらに、村の住民に対して、教区の聖職者階級や、村民との間に最も近い関係にあるすべての人、役人、当地において影響力のある貴族、郡活動家、地主たちの側から理性的な働きかけを行うよう要請していただきたい。その目的は、農民たちの間に広まっている国民生活全般の現象や関する歪んだ見解や、土地利用に関する変化があたかも比較的近い時期に起こるかのようによに述べる誤った情報に対抗することにある。内務大臣、侍従武官長イグナチエフ伯爵。局長プレヴェ。 (Ll. d. 5-7)。

第 156 号

内務省。タヴリスク県知事。官房。第 121 号。1881 年 5 月 29 日。シンフェロポリ。国家警察局宛。

去る 4 月 27 日付文書第 2487 号において、国家警察局に下記通知した。ユダヤ人が所有する酒蔵をベルジャンスク市において起こることが予想されている騒乱の際に盗難から守るために、数々の措置が講じられた。これらは、同時に全ユダヤ住民の資産全般を保全するためにも取られた措置である。ユダヤ人保護のために取られた措置は下記のとおり。臨時総督の命令により、一個中隊が派遣された。町は警察の警護を強化し、私は、官房長を派遣し、町民や地元にいる労働者に対して、ユダヤ人や他の民族に対して騒乱を起こす者は、全て法によって厳しく罰せられる旨説明させた。当時、ベルジャンスクにおいて全ユダヤ人の財産全般に対する略奪が迫っているという噂が広まっており、彼らは、これに基づいて政府の役人に保護を求めた。知事代理、副知事 (署名判読不能)。 (L. d. 8)。

第 157 号

暗号。ベルジャンスク。憲兵大尉スイチン宛。

ベルジャンスクの議会が、軍隊の市への導入に反対し、ユダヤ人の市外移住を嘆願することを決議したという情報は正しいかどうか教えてください。局長プレヴェエ。(L. d. 9)。

第 158 号

ベルジャンスク。憲兵大尉スイチン宛。

町人協会の発表が行われたかどうか、それとも、これは、別々の個人がによる声明や嘆願だったのか、教えてください。局長プレヴェエ。(L. d. 10)。

第 159 号

1881年6月2日付ベルジャンスクからの電報、第43号。

ペテルブルグの国家警察局長宛。

軍隊の導入に立腹し、ユダヤ町人の立ち退きを嘆願したのは、議会ではなく、地元のキリスト教徒の町人たちである。大尉。スイチン。(L. d. 11)。

〈注〉1：オリジナルにおいて、数字は隠されている。

編集者。

第 160 号

内務省。クルスク県知事より。1881年5月26日第3534号。クルスク市。

内務大臣宛。

本年5月11日付第385号の私の報告によって閣下には、クルスク県プチヴリスキー郡の住民感情と、その鎮静化のために取られた手段についてお知らせした。本日、プチヴリスキー郡警察署長代理は、本年5月18日付の報告書第953号において、私に下記報告した。<私〔郡警察署長代理〕は、プチヴリスキー郡のさらに大きな村々において巡回パトロールを実施した。それは、人々の気持ちをより一層落ちつかせるためであり、また、農民の代表者たちに、地主の土地を彼らの間で再分割し、ユダヤ人の財産を略奪するという噂について説明するためである。私は、村の寄り合いにおいて、ユダヤ人の財産を略奪することが皇帝の命令によって行われたかのように伝える噂はまったくのデマであり、そのような略奪は違法行為にあたりと農民たちに説明した。また、地主の土地を農民に与えるという噂もデマであるということ、また、このような噂をばらまいた人々は、民衆と政府の敵であり、農民の状態を改善するために政府が推進している改革を妨害するために暴動や騒乱を起こしているということも伝えた。そし

第160号

内務省。クルスク県知事より。1881年5月26日第3534号。クルスク市。

内務大臣宛。

本年5月11日付第385号の私の報告によって閣下には、クルスク県プチヴリスキー郡の住民感情と、その鎮静化のために取られた手段についてお知らせした。本日、プチヴリスキー郡警察署長代理は、本年5月18日付の報告

書第 953 号において、私に下記報告した。<私〔郡警察署長代理〕は、プチヴリスキー郡のさらに大きな村々において巡回パトロールを実施した。それは、人々の気持ちをより一層落ちつかせるためであり、また、農民の代表者たちに、地主の土地を彼らの間で再分割し、ユダヤ人の財産を略奪するという噂について説明するためである。私は、村の寄り合いにおいて、ユダヤ人の財産を略奪することが皇帝の命令によって行われたかのように伝える噂はまったくのデマであり、そのような略奪は違法行為にあると農民たちに説明した。また、地主の土地を農民に与えるという噂もデマであるということ、また、このような噂をばらまいた人々は、民衆と政府の敵であり、農民の状態を改善するために政府が推進している改革を妨害するために暴動や騒乱を起しているということも伝えた。そして、このようなデマが民衆の間に広がらないように警察に協力し、デマを流す人物を引き渡してくれるよう要請した。> それぞれの寄り合いにおいて、農民たちの多くが、郡警察署長代理スニエシュコフ六等官に、情報を知らせてくれたことを感謝した。概して、彼の言葉がよく理解されたことは明かであった。農民たちの誤解がすっかり晴れることを願うものである。スニエシュコフは、管長を通じて地元の聖職者たちに、教会の説教の中において、農民たちに〔愚かな行動を取らないよう〕教え諭してくれるよう求めた。郷や村の指導者たちには、農民の間で有害なデマが流れていないか嚴重に監視し、そのような噂がどこから来て、どのような方法で広まっているかを突き止めるよう命じた。(Ll. d. 12-13)。

内務省。オデッサ臨時総督。1881年5月18日第168号。内務大臣宛。

4月29日付の私の報告第698号と5月9日付の第132号に加えて、閣下に以下慎んでお知らせする。エリサヴェトグラード市とエリサヴェトグラード郡において発生した騒乱に続いて、ロシア人とユダヤ人住民の間の衝突がヘルソン県の他の都市や郡において、さらに、エカチェリノスラフ県とタヴリ

ダ県においても再発し始めた。4月26日、昼の4時に、アナニエフ市の教会広場に、町人イグナチエ・レシェンコを頭とする群衆が集まった。レシェンコは、民衆を煽動して騒乱に駆り立てた。彼は、平民たちに向かって、「皇帝を殺したのはユダヤ人であり、ユダヤ人を打つことは政府によって命令されているのだが、地元当局はそれを隠しているのである」、と言った。郡警察署長が解散するよう説得したが、効果がなかったので、彼はレシェンコを逮捕する命令を発したが、警察に送致される際に、騒乱参加者が彼を奪い去った。この際、町人サガイダチャの兄弟たちが群衆を教唆して、警察署長コヴェルスキーと警察署員モストヴィクから軍刀を奪い、モストヴィクを殺させたのである。レシェンコと群衆は、乱暴を働きつつ、町の他の地域に向かい、そこで再度逮捕された。今度は警察署長自身が逮捕した。しかし、またもや群衆によって奪還され、一晩中町の郊外で乱暴狼藉を働き、ユダヤ人の民家5軒が破壊された。町の中心部では平静が続いた。翌日警察は再びレシェンコを逮捕し、地方の留置場に収監した。しかし、これにも関わらず、群衆がいくつかの通りに現れて、騒乱を再発する機会をうかがっていた。朝の10時近くに、ユダヤ人とキリスト教徒の2人の婦人の間で起こった喧嘩をきっかけに、ユダヤ人の群衆が集まった。彼らは、やってきた役人モスカレフの説得に対して、「モスカレフは民衆をそそのかして我々を打たせようとしている」と叫び始めた。ロシアの町人の間では、同じ頃、ユダヤ人は役人モスカレフを打ち、2人の兵士を殺したという噂が流れていた。警察署長の説得も民衆には効果がなく、群衆はすぐにふくれあがり、多くの酔っぱらいがやってきた。その中には、女性もいた。民衆は方々に走って行き、暴動が始まった。騒乱は夜の10時まで続いた。軍隊がすぐに到着するという噂により、群衆は解散した。4月27日にヘルソン県知事から、アナニエフ市において騒乱が再発したことを知らせる電報がとどいた。私は、ザモスツキー連隊の1個大隊をチラスポリ市から派遣するためにすぐさま措置を講じた。アナニエフにおいて被害を受けたユダヤ人の家屋は合計で175棟、商店は14軒、酒蔵8個に上った。被害者の申告によれば、被害額は合

計で38,498ルーブルに上る。苦難を受けた人々は、主に、都市郊外に住む貧しいユダヤ人家庭であった。都市の中央部は警察と地元の部隊によって守られていたからだ。20人が逮捕され、犯人の取り調べが続いている。その4月27日夜に、アナニエフから5露里離れたガンドラブリ村において、農民たちが5軒のユダヤ人家屋を襲撃・略奪した。被害額は3,400ルーブル。11人が逮捕された。

4月26日の昼の3時半に、アナニエフ郡ベレゾフカ村で騒乱が発生した。ベレゾフカは、大きな村であり、モレル少将の相続者たちに属していた。3つの郡オデスキー、チラスポリスキー、アナニエフの境界線上にあり、ヴォズニエセンスキー街道に隣接していたため、ベレゾフカは、きわめて広い地区における、非常に活気がある商業中心地である。月に2度行われる日曜日の定期市は、郊外から多くの農民たちを集めている。これらのすべてのゆえに、ベレゾフカは、ユダヤ人が好んで居住する場所となり、その地の商売はすべてユダヤ人の手に握られている。暴徒によって、159の家屋と19の店、2つの納屋が被害を受けた。商品は、一部はその場で破壊され、一部は盗まれた。3軒の家屋が放火された。地元警察署の署長ヴォイツェホフスキーは、騒乱を予防するために、郊外の村々から80人の農民を集め、警護に当たさせたが、いざ騒乱が始まると、走って逃げ去るか、自らそれに加わったのである。署長ヴォイツェホフスキーは、馬から落ち、重傷を負った。その後、まったく茫然自失の状態になり、群衆はいかなる妨害もなく、一昼夜、乱暴狼藉を働いた。被害者の申告によると、損失は450ルーブルに達した。逮捕者数60名。死者はなく、2人のユダヤ人が負傷した。ユダヤ人の家族は野原に逃げ、多くの者が自分の子どもたちを見失った。子どもたちは、近所のドイツ人開拓民によって見つけられ、両親のもとに返された。4月27日に、既述の騒乱について報告を受け、同日、私は、エッサウル・グレコフの指揮下にあるドンスキー第8連隊のコサック騎兵中隊をオデッサから派遣した。コサック兵は、4月28日午後4時にオデッサから81露里離

れたベレゾフカ村にやってきたが、すでに村は平静になっていた。5月11日までベレゾフカに滞在した騎兵中隊は、同日、オデッサへの帰路だったが、ベレゾフカにはニコラエフからヴォズニェセンスク市に派遣されたコサック騎兵中隊の1個小隊が派遣された。

アナニエフとベレゾフカでの騒乱はかなり激しい様相を呈したし、アナニエフ郡の村や大村において衝突が起こるかもしれないという噂があるため、私は、4月27日アナニエフ市にヘルソン県憲兵局長デ・ラザリ大佐を、4月29日ベレゾフカ村に私の部下であるペテルソン中佐を、派遣する必要があると考えた。私は、秩序を回復するためにあらゆる措置を講じるよう彼らに命令した。また、郊外の村や大村に行って、寄り合いに参加し、暴動によってすべての地区にどのような損害が加えられたか農民に説明するよう提案した。また、その際、「もし彼らが暴動を起こし、社会の秩序と安寧を損なうならば、法律によって厳しく処分されることになる」と私の名によって付け加えておくようにも命じた。その時、私は、デ・ラザリ大佐とペテルソン中佐に対して、コサック騎兵斥候隊を郊外に派遣し、発生が予想される騒乱に備えておくよう提案した。ペテルソン中佐に対しては、村が平静に戻るまでベレゾフカと郊外にとどまるよう命じた。同時に、ヘルソン県知事に対しては、まだ興奮状態にあり、衝突が再発する恐れのあるアレクサンドリア、アナニエフ、エリサヴェトグラード各郡に再度自ら出向くよう提案した。この目的のため、ヘルソン県知事の提案に従って、郡貴族長や郡役所農民局常設メンバーがこれらの村々に訪れている。

4月21日、アナニエフ郡のロマノフク村が襲撃を受けた。その結果、ヴォズニェセンスクから25人の騎乗砲兵が将校と共に派遣された。その上、小規模な騒乱がアナニエフ郡のザヴァツキー村とテヴトゥロフスキー村で発生した。ザヴァツキー村では、外部の何者かによって7軒のユダヤ人民家が襲撃された。カンタクゾフカ村において予想される騒乱に備えて、ヴォズ

ニエセンスク市から騎乗砲兵小隊が派遣された。ヘルソン県チラスポリ郡の主にユダヤ人が住む村において動揺があるため、私は、4月29日にチラスポリ郡ペトロヴェロフカ村に、私の部下のフォッサ少将を派遣し、寄り合いを開いて住民を安心させ、説明をする必要があると考えた。5月1日に、オデッサから1個歩兵中隊が現地に派遣され、現在もそこに駐留している。オデッサ郡ヤノフカ村において、農民がユダヤ人に対して敵意を募らせているため、暴動を予防するために、5月1日にオデッサから1個中隊が荷馬車によって輸送され、郊外が平静化するまで駐留した。5月4日に、オデッサ郡シュタイエル村において、群衆が、ユダヤ人レヴィンの小さな店を略奪し、9人が逮捕された。ニコラエフ市に近い同郡ヴァルヴァロフク村で騒乱が発生する恐れがあるため、ニコラエフ市軍司令官に対して、有事の際に軍が協力するよう要請があった。5月1日、ニコラエフ市において小規模の騒乱が発生した。群衆が、14軒のユダヤ人民家と居酒屋で窓を叩き落とし、2軒の店を略奪しようとした。47人が逮捕された。5月3日、中規模の騒乱が再発した。悪意のある人々が5月6日に大規模な騒乱を再発させようとしているという情報があったので、ニコラエフ市軍司令官は、騒乱を防止するために、郊外にいたドンコサック中隊をニコラエフに集めるために措置を講じた。その時から平静は保たれている。当時、騒乱を予防するために、コサック騎兵半中隊が、ニコラエフからブラトリュボフカに差し向けられた。ヘルソン県において、5月10日、群衆は、市場において騒乱を起こそうとしたが、すぐさま警察に抑えられた。11人が逮捕された。ノヴォミルゴロド市は、キエフ県ズラトポリ市に近く、その郊外には当時キエフ軍管区の部隊が滞在していたことから、私は、侍従武官長ドレンチェレンに対して、有事の際には軍に協力してくれるよう要請する必要があると考えた。エリサヴェトグレードに遊撃連隊を派遣するよう要請があったが、現在この連隊はノヴォミルゴロドに帰っており、キエフ県の県境にある直近の地域を援助できるだろう。

エカチェリノスラフ県のアレクサンドロフスク市において騒乱が発生した。5月1日、午後5時頃、主に鉄道修理工場の労働者からなる800人ほどの群衆がユダヤ人の民家や商店を襲った。10軒の家屋と80個の大箱、8軒の商店、2個の酒蔵が破壊された。騒乱は夜1時まで続いた。エカチェリノスラフ県知事本人が5月2日に2個中隊を連れてアレクサンドルにやってきた。群衆が依然として興奮したままであると判断したので、エカチェリノスラフからさらに2個中隊を呼び寄せる必要があると考えた。5月2日から3日夜にかけて、群衆は、騒乱を再発させようとしたが、対抗措置を講じられたので実現しなかった。軍隊をアレクサンドルに残したまま、エカチェリノスラフ県知事は5月4日にエカチェリノスラフに向かった。これと同時に、小規模の衝突がアレクサンドルに最も近い村々・・ヴォズニエシensk、ペトロヴスキー、ソフィエフスク、カムィシェヴィ、アンドレエフカ、グリゴリエフカ、ナタリエフカ・・で発生した。5月3日朝、バヴログラード郡ロゾヴァ駅で騒乱が発生した。鉄道機関庫の修理工場の100人ほどの群衆が、ユダヤ人の商店を襲撃した。警察署長がすぐさま歩兵中隊を伴って現地に出発したが、軍隊が到着する前に地元の警察署長により、郊外の農民たちの協力もあって平和が回復していた。2軒のユダヤ人民家が略奪の被害にあった。4つの家屋の窓枠が破壊された。22人が逮捕された。騒乱が5月9日に再発するとの噂があるため、エカチェリノスラフ県知事は、本日居酒屋を閉店させ、住民が近づかないように監視した。ロゾヴァヤの人口が少ないため、県知事は、やってきた中隊をバヴログラードに返すことが可能であると判断した。同じ頃に、モヴォモスコフ郡のエリザヴェトフカとマヌイロフカ、において小規模な暴動が起こった。エカチェリノスラフ県のような地域から、騒乱が準備されているとの報告がとどいたので、県知事は郷役所や市議会に印刷された公告文を送った。その中で、住民は平静を保ち、騒乱防止のために当局に協力するよう要請されていた。アレクサンドル郡のヴェルフニエドニエプロフスク市とグリヤイポリエ村から不穏な知らせがとどいたので、5月7日、各1個中隊ずつが現地に派遣された。

騒乱が起こるとの噂は、ロストフ・ナ・ドン市において根強く信じられており、特に、奇跡を呼び起こすアクサイの聖母のイコンがやってきて、大勢の人々が集まってきたため、ロストフ市の市民は、私の許可のもとに、警察署長を長とした、軽工場及び重工場労働者に対する監視のための市民委員会を設立した。その際、私は、コサック隊長に、ロストフ市において2個コサック騎兵中隊を指揮するよう要請し、またこの隊長に「エカチェリノス県知事に個人的に現地に赴くよう提案してくれ」と頼んだ。私は「ニコポリ村やタヴリダ県に隣接する地域において軍隊が必要になった場合、セヴァストポリにいる第7師団指揮官侍従武官長リヒテルに要請すべきである」と県知事に提案し、リヒテルには私が個人的に指示した。5月9日、エカチェリノスラフ県知事が私に伝えてきたところ騒乱が起こるとの噂は、ロストフ・ナ・ドン市において根強く信じられており、特に、奇跡を呼び起こすアクサイの聖母のイコンがやってきて、大勢の人々が集まってきたため、ロストフ市の市民は、私の許可のもとに、警察署長を長とした、軽工場及び重工場労働者に対する監視のための市民委員会を設立した。その際、私は、コサック隊長に、ロストフ市において2個コサック騎兵中隊を指揮するよう要請し、またこの隊長に「エカチェリノスラフ県知事に個人的に現地に赴くよう提案してくれ」と頼んだ。私は「ニコポリ村やタヴリダ県に隣接する地域において軍隊が必要になった場合、セヴァストポリにいる第7師団指揮官侍従武官長リヒテルに要請すべきである」と県知事に提案し、リヒテルには私が個人的に指示した。5月9日、エカチェリノスラフ県知事が私に伝えてきたところによると、アレクサンドル郡やマリウポリ郡において、農民たちがユダヤ人の開拓地トゥルドリユボフカ、ニェジャエフカ、グラフスカヤ、と数人のユダヤ人地主を襲って略奪を働き、家畜を逃がしてしまった。略奪者の一味の中から21人を逮捕できた。私の要請により、国家資産局長が5月9日現地にやってきた。ユダヤ人開拓者たちを援助するための資金を探し出すためであった。スラヴァノセルプス郡や他の郡も興奮状態にあったため、部隊が派遣された。5月8日、ヴェルフニエドニエプには第134連隊の1個中隊が、

ニコポリには第 136 連隊の 2 個中隊が、5 月 9 日、スラヴァノセルブに第 136 連隊の 1 個中隊が、それぞれ派遣された。5 月 9 日、エカチェリノスラフの副県知事が、住民の気持ちを落ちつかせるためにアレクサンドル郡に派遣された。5 月 11 日マリウポリに第 136 連隊の 1 個中隊が派遣された。またアレクサンドル郡には同連隊の 2 個中隊が派遣された。5 月 13 日、バフムトに 2 個中隊が派遣された。コンスタンチノフ鉄道ユゾヴォ駅の近くにあるノヴォロシースコエ協会工場に 1 個中隊、アゾフスカヤ鉄道ニキトフカ駅の近くにあるユージュノエ協会工場に第 136 連隊 1 個中隊が派遣された。タガンログ市で騒乱が予想されているため、地元の市長が独自にあらゆる手段を講じたため、現在平静が保たれている。

タヴリダ県において、4 月後半に、様々な場所で、ロシア人とユダヤ人住民の間に衝突が起こるかもしれないという噂が現れ始めた。4 月 25 日ベルジャンスクにおいて町人協会全会員による集会が開催され「社会を騒乱に陥れる有害なメンバーであるユダヤ人を、暴力を振るわずに、合法的な方法によって、ベルジャンスク市から追放するために、このことを最高政府に対して嘆願していこう」という決議がなされた。5 月初旬に、騒乱がベルジャンスキー県のいくつかの村において発生し、かなり深刻な事態になり始めたため、県知事は現地に赴いた。知事には、「エリサヴェトグラード第 34 師団長に軍事支援を要請するべきだ」との提案があった。師団長には、1 個大隊を県知事の指揮下につけるよう命令が下った。オレホフ市において、5 月 4 日騒乱が発生した。ユダヤ人所有の卸売倉庫 1 棟、複数の酒蔵や商店が破壊された。現地にメリトポリから 1 個中隊が派遣された。タヴリダ県知事は、オレホフとメリトポリに特務官吏を派遣し、住民の説得にあたらせた。5 月初旬に大きな市が開かれるドニエプロフスキー郡カホフカ村で騒乱が発生しないように、ヘルソンから市の時期に合わせてコサック騎兵中隊が派遣された。この地において騒乱は起きなかった。

ベッサラビア県においては、キシニョフでの1つの事件(4月29日付第698号で報告済み)を除けば、今日まで騒乱は起きていない。ペリツィにおいて、騒乱を予防するために、地元住民の要請と県知事の同意に基づき、有事の際には、来る5月17、18、19日の市を中止することが決定された。ここ数日間オデッサ臨時総督の管轄地内における反ユダヤ運動は鎮静化し始めているため、私は、閣下に、過去の騒乱について詳細な報告を行うことが可能と考えた。それは、聖霊降臨祭が近づいており、5月25日から6月1日までオデッサや郊外に、クルスクや他の内県から多くの労働者がやってくる事が予想されるが、もしあらかじめしかるべき予防措置を講じておれば深刻な衝突事件を避けられると考えたからである。

オデッサ臨時総督の管轄地域のほとんどすべての場所において起こっている反ユダヤ活動の性格を明らかにするならば、この運動の原因は一つしかないという結論に達せざるを得ないのである。エリサヴェトグラードとオデッサにおいて起こった衝突事件の後、私はこの問題について意見を述べたが、しかし、未だに、この意見を変える理由を見出せないのである。かくして、私が何度も述べてきたとおり、たしかに、騒乱発生という事実そのものは、いわば直接的な性格を持っており、ユダヤ人の搾取に対する長年積内における反ユダヤ運動は鎮静化し始めているため、私は、閣下に、過去の騒乱について詳細な報告を行うことが可能と考えた。それは、聖霊降臨祭が近づいており、5月25日から6月1日までオデッサや郊外に、クルスク県や他の内県から多くの労働者がやってくる事が予想されるが、もしあらかじめしかるべき予防措置を講じておれば深刻な衝突事件を避けられると考えたからである。

オデッサ臨時総督の管轄地域のほとんどすべての場所において起こっている反ユダヤ活動の性格を明らかにするならば、この運動の原因は一つしかないという結論に達せざるを得ないのである。エリサヴェトグラードとオデッサにおいて起こった衝突事件の後、私はこの問題について意見を述べたが、し

かし、未だに、この意見を変える理由を見出せないのである。かくして、私が何度も述べてきたとおり、たしかに、騒乱発生という事実そのものは、いわば直接的な性格を持っており、ユダヤ人の搾取に対する長年積もりに積った怒りが騒乱を生み出したということは疑いようもない事実である。しかし、それだけではなく、他方において、革命政党が騒乱を利用して自分の目的を達成しようとしているという意図が、騒乱を拡大する原因となっているということも事実だと思ふのである。例えば、ニコラエフにおいて、一度、警察のもとに派遣されたコサクに対して宣伝ビラが配られたという出来事があった。封筒の中に、「キリストを愛する兵士は」ユダヤ人を擁護してはならない、というアピール文書が入っていた。当地では、「主人や当局を打て！」と叫ぶ、こんにゃく版で刷られた煽動的な内容の宣伝ビラが方々に張られた。オデッサにおいて、騒乱の逮捕者の中に、3人の有名な人物がいることが分かった。彼らは以前政治的な不審人物として逮捕されたことがあった。彼らがどの程度騒乱に加わったのかを明らかにするために、1878年9月1日の法律に基づいて取り調べが行われている。しかし、これと同時に、私が県知事から受け取った詳細な報告から、多くの場合、ユダヤ人自身が自ら騒乱を誘発する直近の原因を作っているということが明らかになっている。彼らは、人を挑発する行動を取ったり、キリスト教徒住民を嘲るような行動を取っている（彼らを嘲るのは、祭日に居酒屋を閉店するなどの予防施策を講じることにより、ある程度の苦痛を味わわされているという事情があるためである）。ユダヤ人の中には、自分の特別な目的を果たすために、虚偽の情報を垂れ込む者もいた。私は、このような情報提供者を厳しく追及した。バルト駅で生活し、自分の不道德な行いによって有名であった11人のユダヤ人が、この駅の憲兵に虚偽の密告を行った上宣誓した罪により、1ヶ月牢獄に拘留された。

住民の感情を鎮めるために、また、将来の騒乱を防止するために、私は、県知事を通して、郡貴族長と郡役所農民局常任メンバーに、興奮状態になる兆

候が見られる地域を巡回パトロールしてくれるよう頼んだ。また、寄り合いにおいて「政府は騒乱を許すことができない。おとなしく自分の身を保ち、悪人のそそのかしに乗らぬよう。誰に対してであれ、暴力を振るわぬよう」農民たちに伝えてくれと頼んだ。村や大村や集落においては、警察の手が十分にとどかない場合がある。すでに発生してしまった騒乱に対してだけではなく、特に騒乱の未然の防止や、悪いことを企み、農民たちに権利と義務を歪んだ形で教える人々の影響から住民を守ることに於いて、警察は十分な対応ができていない。そのことを考慮して、私は、県知事に、郡貴族長や郡役所農民局常任メンバーとの連絡をよく取るように提案するのがよいと考えた。これらの人々には、方々に出向いた際に、郷や村の寄り合いにおいて、人々に「自分の仲間から信頼のおける自作農を選んでくれ」と言ってもらうのである。選ばれた人々は、つねに村人を監視できて、騒乱の恐れがある場合には長にきちんと警告し、不審人物を警察に引き渡し騒乱を未然に防いでくれるため、効果が上がることは疑いようがない。同時に、私は県知事や市長に対して「市や郡の警察当局に、聖法令第1部第2巻541条及び本条項への付則（1879年）に含まれる、騒乱鎮圧のための軍隊要請に関する規則に特別注意するように言ってくれ。また、この付則の短い抜粋を、印刷機関において公示するように。また、騒乱に際して取られる軍隊の活動に関する規則を知らせるために郷全体に配布される個々の印刷物にも、その付則を載せてくれ。」と要請した。ヘルソン県のいくつかの場所において、小隊が自発的に地元住民を制裁しているかのような噂が広まっていることに関しては、似たような噂が最初に現れた際に、私は、すぐに県知事に電話をして、噂が真実であることは疑いようがない。同時に、私は県知事や市長に対して「市や郡の警察当局に、聖法令第1部第2巻541条及び本条項への付則（1879年）に含まれる、騒乱鎮圧のための軍隊要請に関する規則に特別注意するように言ってくれ。また、この付則の短い抜粋を、印刷機関において公示するように。また、騒乱に際して取られる軍隊の活動に関する規則を知らせるために郷全体に配布される個々の印刷物にも、その付則を載せてくれ。」と要

請した。ヘルソン県のいくつかの場所において、小隊が自発的に地元住民を制裁しているかのような噂が広まっていることに関しては、似たような噂が最初に現れた際に、私は、すぐに県知事に電話をして、噂が真実であると確認された場合は、そのような行動を中止するように命令した。しかし、県知事は、オデッサに来た後、「あなたが指摘した事実は、エリサヴェトグラード市や周辺の村々において騒乱が発生した時期と関係している。」と密かに私に伝えた。その上、「刑罰が下された（もしくは、下されている）事例は、農民自身と村当局が刑罰が与えられるよう指示したり嘆願した場合であるか、もしくは、暴力をさらに拡大させないための必須の手段である場合である。」とも述べた。私のこの文書には、5月18日に騒乱の舞台となった場所からの、全報告リストが記載されている。報告を受ければ、私は、すぐさま閣下に（重要事項については電話にて）、過去の事項については詳細な検討に値するものだけではなく、（余裕がある場合）新しい出来事についての説明をも提出いたします。侍従武官長ドンドゥーコフ・コルサコフ公。(Ll. d. 15-29)

注：史料148号までの翻訳と分析は以下を参照。

拙著「ロシアにおける反ユダヤボグロム史のための資料集」(1)～(7)
『愛知教育大学研究報告 人文・社会科学編』58-63号、66号(2009-2014年、
2017年)

The Analysis of the Materials on 1881 Pogrom

Tomobumi KUROKAWA

ABSTRACT

The purpose of this paper is to analyze the historical materials, Материалы для истории антиеврейских погромов в России (Materials for Anti-Jewish Pogroms in Russia), and to describe the pogroms in Ukraine in 1881. The materials were published by the Russian government in Petrograd in 1919 and 1923, covering the pogroms between April and September in 1881. The materials are consisted of the two parts; the first part is of the official reports on the pogroms by the provincial governments to the central government, the second part is of the reports by count P.I.Kutaisof, sent by the central government to examine the pogroms in Ukraine. He describes the pogroms almost chronologically not only from governmental view point but also from the general public view point.